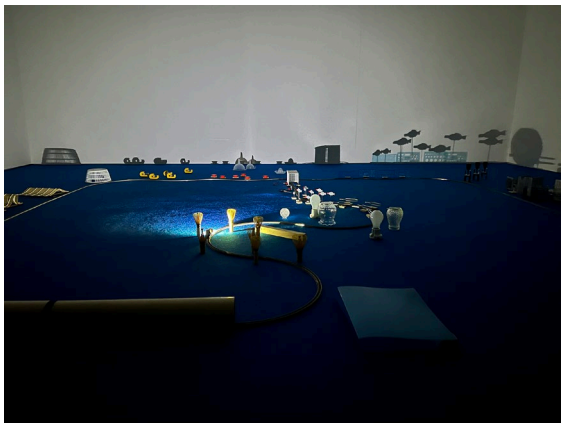
千葉県立美術館
房総の海をめぐる光と影とアート展

開催期間：２０２３年7月１９日（水）～２０２３年9月１８日（月・祝）



企画展第１部「描かれた房総」



企画展第２部「クワクボリョウタ《コレクション・ネット》」



美術講演会の様子



ギャラリートークの様子

【企画展の目標】

■千葉県誕生１５０周年を記念して、千葉県の発展を支え育んできた海に注目し、「房総の海をめぐる光と影とアート展」と題し、現代アートと伝統的なアートの２部構成で、海の美しさと豊かな文化を紹介した。

■第１部では、「描かれた房総」と題し、明治以降、県内の各地で描かれた絵画作品を展示し、時代とともに変貌をとげた各地の景観を、絵画と写真で紹介。海辺の移り行く自然、歴史的・文化的背景、工業、漁業など様々な海の文化への理解を深めた。

■第２部では、「クワクボリョウタ《コレクション・ネット》」と題し、現代アーティスト・クワクボリョウタが、自転車で東京湾側から海岸線を走破し千葉県を一周するなど、地理、自然、産業、文化等多方面からリサーチし、制作した習作６点と、千葉の海のイメージを、クワクボならではの光と影によるインスタレーション《LOST19#しおさいのくに》により表現し、「房総の海」の魅力を多くの方々に体感いただいた。

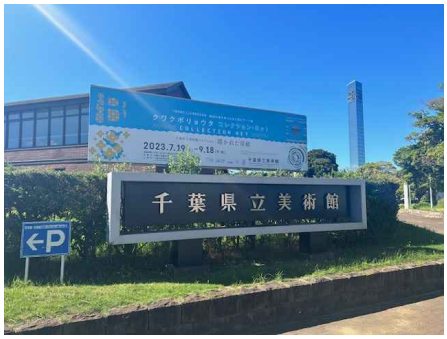
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１．企画展示の内容

■開催期間：２０２３年7月１９日（水）～２０２３年9月１８日（月・祝）

■開催場所：千葉県立美術館第１・２・３・８展示室

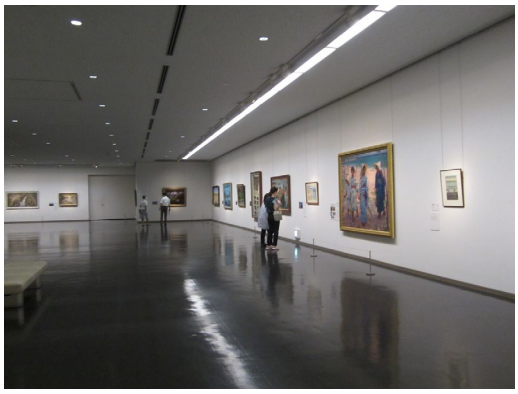
■入場者数：7,４３７人



千葉県立美術館　外観



企画展会場　入口



「描かれた房総」展示室の様子



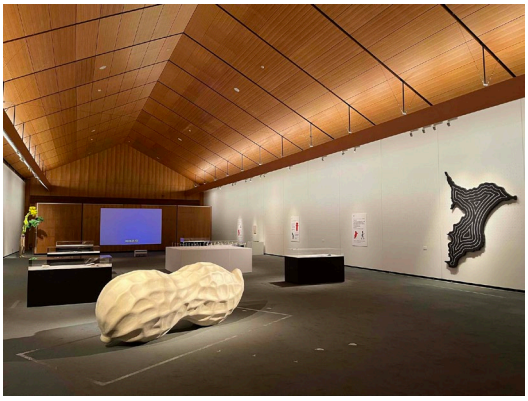
展示作品：《稲毛の夕焼け》1892-97 年頃



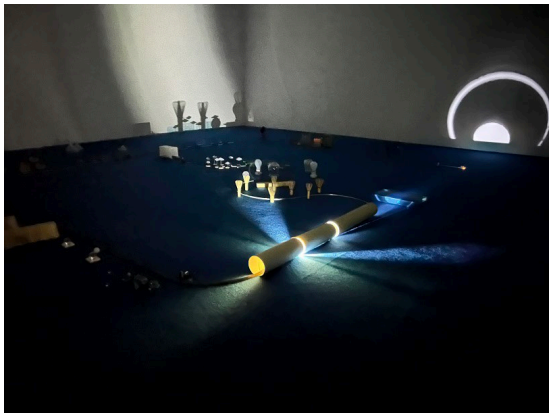
展示資料：《稲毛の夕焼け》に描かれた鳥居付近の現在の様子

明治から昭和にかけて描かれた千葉県内の風景と現在の様子を比較し、海をめぐる歴史や変遷の背景にふれ、千葉の海を見つめ直す。

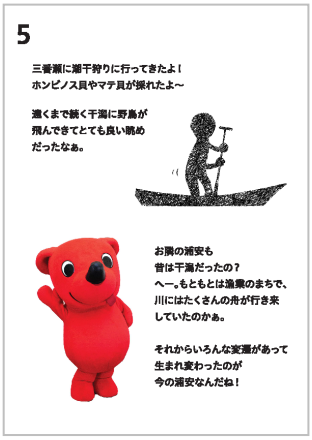
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



クワクボリョウタ《コレクション・ネット》
展示室の様子



クワクボリョウタ《コレクション・ネット》
《LOST#19　しおさいのくに》



アーティストのクワクボリョウタが、千葉県のマスコットキャラクター・チーバくんと掛け合いをしながら千葉県をリサーチするというストーリーの下、易しい問いかけや語り口で千葉県の海への関心を高めた。さまざまなリサーチに基づく完成作品《LOST#19　しおさいのくに》は、光と影を生かした千葉県の海を表現した作品で、空間全体を生かして体験的に海の迫力や美しさを感じ取ることができた。

【来館者の声】

◯房総半島の風景がそのままの形で描写されており実際に行ったような味わいを感じさせる素晴らしい作品でした。その風景を拝見しさらに海に行きたいだったり海のきれいさだったりを改めて感じました。またこれからも一人一人が海を大切にきれいであるようにしていかなければならないんだと展示品を鑑賞して学ばせていただきました。

◯人間と自然（海）とのかかわりが深く感じられました。漁師さんが窓から海をながめている姿は印象的です。

◯昔から日本人は海が好きなんだなと思いました。絵にそれが感じられました。

◯海と川に囲まれた千葉の良さを再確認

〇自然と共生するところから、海につながるんだということを感じました。

〇昔の海を残したい。

〇歴史は常に海と共にあり、人々の生活は移り変わっても海は変わらない。生物は海で誕生し、海への恩恵を忘れてはいけない、千葉県は海が身近にある豊かな街。

〇豊かな海は千葉の大切な資源であると感じました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

関連事業の様子

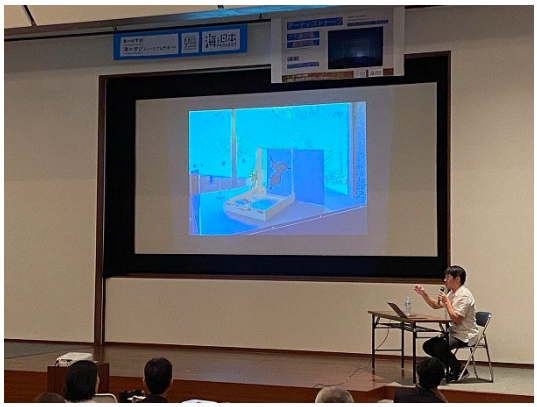
■ アーティストトーク「千葉の海、創造の海」

【開 催 日 時】２０２３年8月１２日（土） １４：００ ～ １５：００
【開 催 場 所】千葉県立美術館　講堂
【参 加 者 数】５８名
【目標・内容】

●「クワクボリョウタ《コレクション・ネット》」の企画・制作者である現代アーティストクワクボリョウタ氏を登壇者に迎え、「千葉の海、創造の海」と題し講演いただいた。クワクボ氏が様々なリサーチにより、自らが導き出した千葉県の特徴を、アート作品に表現するまでのプロセスや苦労、過去の作家にインスパイアした習作制作を経て、千葉の海をインスタレーションで表現するまでに至った過程などを紹介。



受付の様子



アーティストによる作品紹介の様子１



アーティストによる作品紹介の様子２



参加者の様子

アート作品を通して、千葉の海について再考する。千葉県を自転車で一周した旅の過程で撮影した写真として、展覧会名である《コレクション・ネット》のイメージの一つとなった漁師の網など実際に撮影した写真を紹介し、展覧会の裏側を語った。

【来館者の声】

◯千葉県は土地が海に囲まれているので、海をあたりまえに感じられる日常を過ごしている千葉県人、私たちは幸せなんだなと思った。

◯海は大事にしていかなくてはいけないものと改めて考えました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■講演会「描かれた房総の海をめぐる地理の旅」

【開 催 日 時】２０２３年7月29日（土） １４：００ ～ １５：００
【開 催 場 所】千葉県立美術館　講堂
【参 加 者 数】５４名
【目標・内容】

●千葉県地理学会会長　石毛一郎氏を講師に迎え、当館のコレクションに描かれた千葉の海などの特徴を地理学的に解説。明治・大正期から現在に至る変遷などを、地理的データや文献資料などとともに紹介しながら、時代の移り変わりとともに変化する海の様子や人々の営みに与えた影響などについて解説した。



受付の様子



講演会の様子

明治・大正期の千葉の海を描いた作品と、現地の現在の様子を比較し、海の自然環境や開発などについて再考する

【来館者の声】

◯千葉の海を訪れたいと思いました。

◯自然を保たれた海を残したいと思った。

〇海に関する歴史や産業などについて学ぶことができた。それらを背景に、美術を鑑賞することができた。

〇現代と半世紀ほど前の千葉の海の歴史を美術品と経済（人の流れ）の両方から学べたと思う。

◯開発対象としての「海」と、環境保全としての「海」。海の歴史には多様な面があると思う。作品化された海は、過去の自然の形であり、別の感慨も生まれるものである。

〇千葉には海にまつわる文化が多くあり、行商や海岸での海水浴や集落など、なくなりつつある風景を大事にしたいと思いました。

〇美術館を出ると即、海なので、よく感じながら帰ります。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■館長によるギャラリートーク

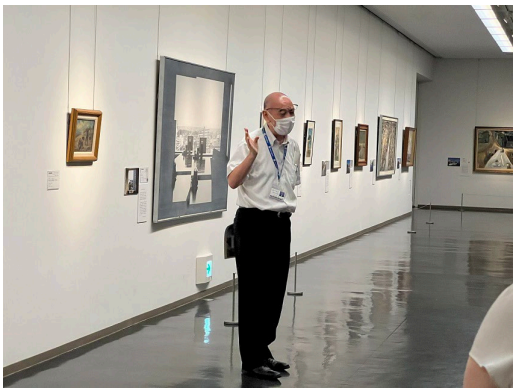
【開 催 日 時】２０２３年8月１０日（木）　１８：００ ～
8月１３日（日）　１３：３０ ～
8月２７日（日）　１３：３０ ～
9月１５日（金）　１８：００ ～

【開 催 場 所】千葉県立美術館　第１、第２展示室

【参 加 者 数】１７６名

【目標・内容】

●当館館長が、「描かれた房総」に展示したジョルジュ・ビゴー作《稲毛の夕焼け》の写生地となった稲毛海岸の歴史的変遷や、浅井忠作《漁婦》の写生地となった南房総市付近が当時の画家たちに与えた影響について解説。千葉県の海が結んだ作家たちのつながり、黎明期の日本の洋画界と海外作家との関わりなどについて理解を図った。



《稲毛の夕焼け》解説の様子



《漁婦》解説の様子

【来館者の声】

◯海はみるときのその人の状況、季節、天気　いろいろな表情をみせてくれます。絵を通じてそこにえがかれた人とともにいろんな気持ちを共有できました。

◯見慣れた千葉の海について、改めて認識できた気がした。工業などの人間の営みと自然のつながりについて考えさせられた。

◯海を渡って作家どうしの交流があったというお話から、千葉が世界へつながっていた大きなスケール感をイメージできました。

〇海は、人々と共にあったのだと実感した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■学芸員によるギャラリートーク「対話型鑑賞教室」

【開 催 日 時】２０２３年7月２２日（土） １１：００ ～、１３：３０ ～
８月１９日（土） １１：００ ～、１３：３０ ～
【開 催 場 所】千葉県立美術館　第１、第２展示室
【参 加 者 数】２３名
【目標・内容】

●２日間、のべ４回にわたり当館学芸員による「対話型鑑賞教室」形式でのギャラリートークを開催した。展示された当館コレクションの中から川瀬巴水作《房総太海》、椿貞雄作《鋸山から見た房総半島》、浅井忠作《漁婦》について、来場者との対話の中から、房総の海を描いた作品についての魅力を知ってもらう機会を提供した。参加者からは「ただ見学するだけでは分からない魅力を知ることができた」「海の清々しさを感じることができた」などの感想が寄せられた。



対話型鑑賞の様子



対話型鑑賞の様子

鑑賞者が海を描いた絵画作品への自由なイメージを言語化することにより、改めて千葉の海への興味・関心を促す。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■学芸員によるギャラリートーク「キュレータートーク」

【開 催 日 時】２０２３年8月26日（土） １３：３０ ～
【開 催 場 所】千葉県立美術館　第3、第8展示室
【参 加 者 数】２０名
【目標・内容】

●当館学芸員が、「クワクボリョウタ《コレクション・ネット》」について、担当者ならではの作品制作にまつわるアーティストの思いや制作工程での秘話などを、作品解説とともに紹介した。



キュレータートークの様子



キュレータートークの様子

【来館者の声】

◯（海は）埋め立てられて景色が変わりながらも存在は変わらず、地域に根付いていると感じた。

〇千葉は海でかこまれているため、なくてはならないものであり、生活の一部になっていること。これは昔もそうだったことを学んだ。

〇まさに光と影を使って千葉の海からの景色や魅力を伝えていたことから、この展示のタイトルすべてを凝縮したような感想をもった。

〇やはり千葉にとって海は大切ですね。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

クワクボリョウタの《コレクション・ネット》は、千葉県を一周した調査に基づく作品であり、映像や立体などさまざまな形でリサーチの過程を新規美術作品として制作した。さまざまなリサーチを経て完成した、房総の海から着想した《LOST#19　しおさいのくに》は、空間全体を生かした大型のインスタレーション作品である。助成を受けることにより、展示空間を生かした多様なメディアによる新作の制作を行うことができ、海は千葉県の重要な資産であることなど、千葉県の海の魅力を余すことなく伝えることができた。
また、現代アーティストの新作と共に、収蔵品の再調査に基づく《描かれた房総》を開催して伝統的な視点も取り入れることにより、今も昔も人々は海と共にあり、海を継承していくことの重要性も示すことができた。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．浦安市郷土博物館	資料借用

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．NHK 千葉放送局「ちば WEB 特集」	「房総の海をめぐる光と影とアート展」千葉県立美術館企画展、2023 年7月 28 日
2．情報科学芸術大学院大学 WEB「Reports」	「メディア越しの観察者　クワクボリョウタ《コレクション・ネット》を読む」、2023 年 11 月 29 日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。